令和６年度　学校評価の集計結果と分析

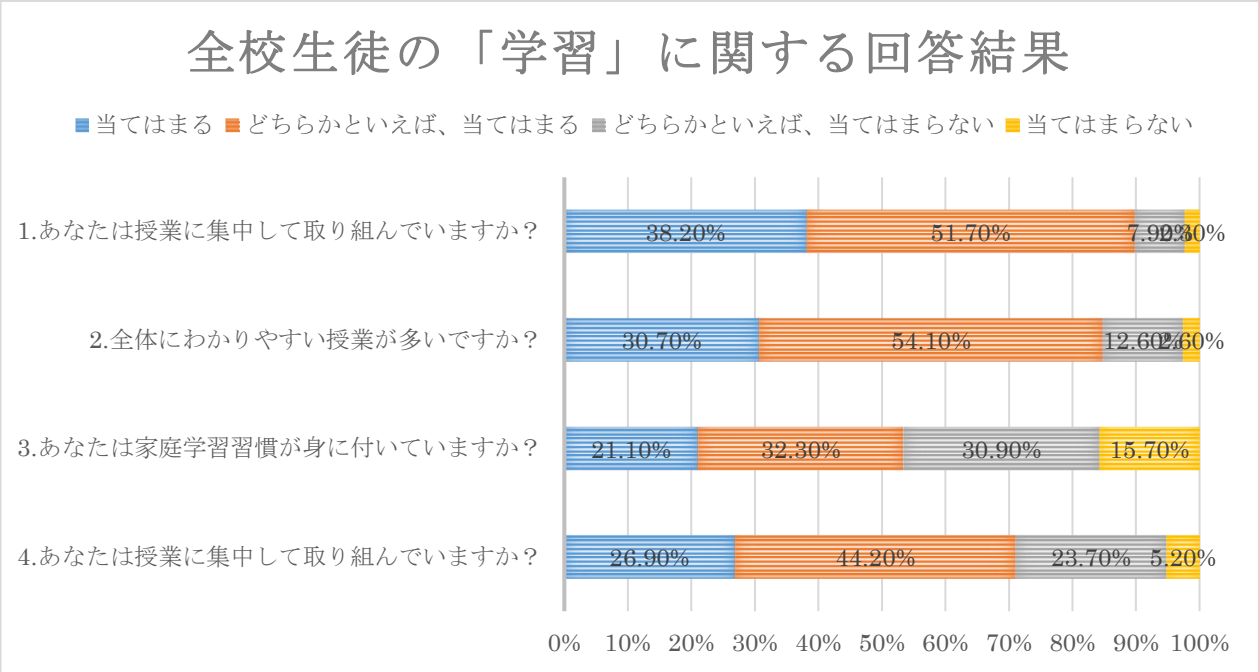
○学校評価の集計結果から、次年度の課題を決めることを基本とする。

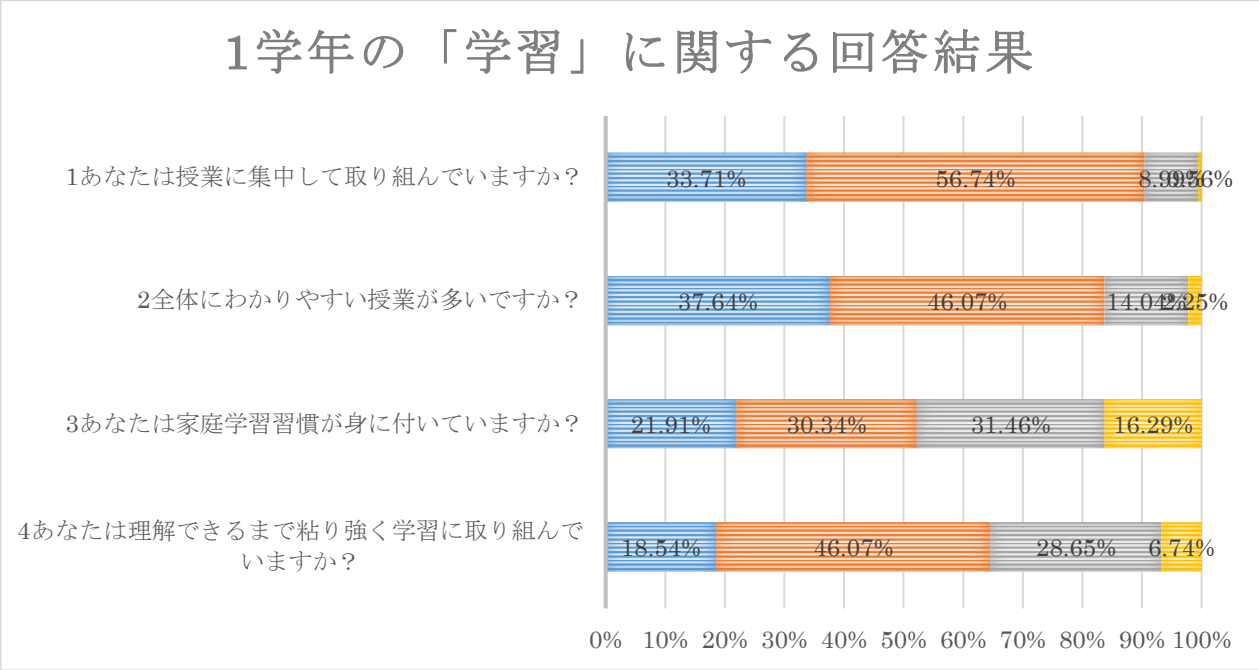
・学習指導要領が目指す内容と学校の実態を考慮しながら課題を決定する。
・学校評価の集計結果から、教育課程検討委員会で評価の高い項目と低い項目を抽出し、学校課題としての検討を行う。また、全国学力・学習状況調査と札幌市で推進している「共通指標」とも連携していく。
・教務部で検討した課題について職員会議で全教職員の共通理解を図り、検討していく。
・学校経営の観点より、学校長の経営方針の中から、とりわけ重点を置く必要のある項目も課題として取り入れて、本校の学校経営基本方針である「明日も行きたくなる学校」を目指す。

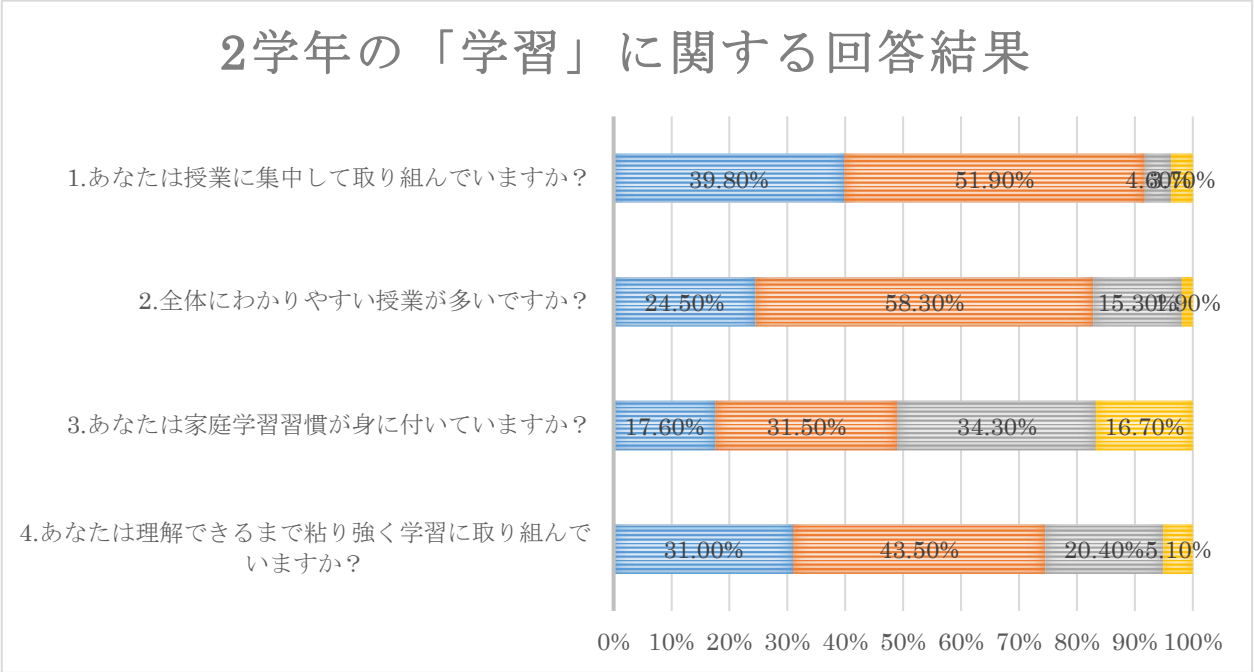
1. 今年度の調査結果より

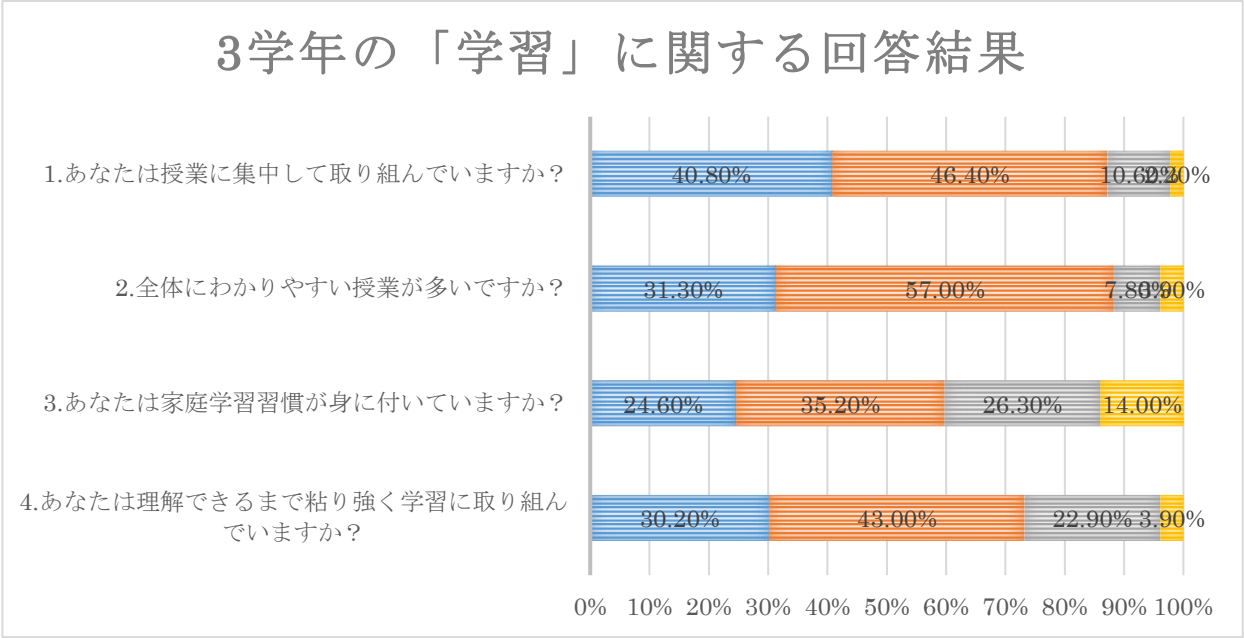
（1）　生徒の学校評価に関して

①　「学習」に関する項目





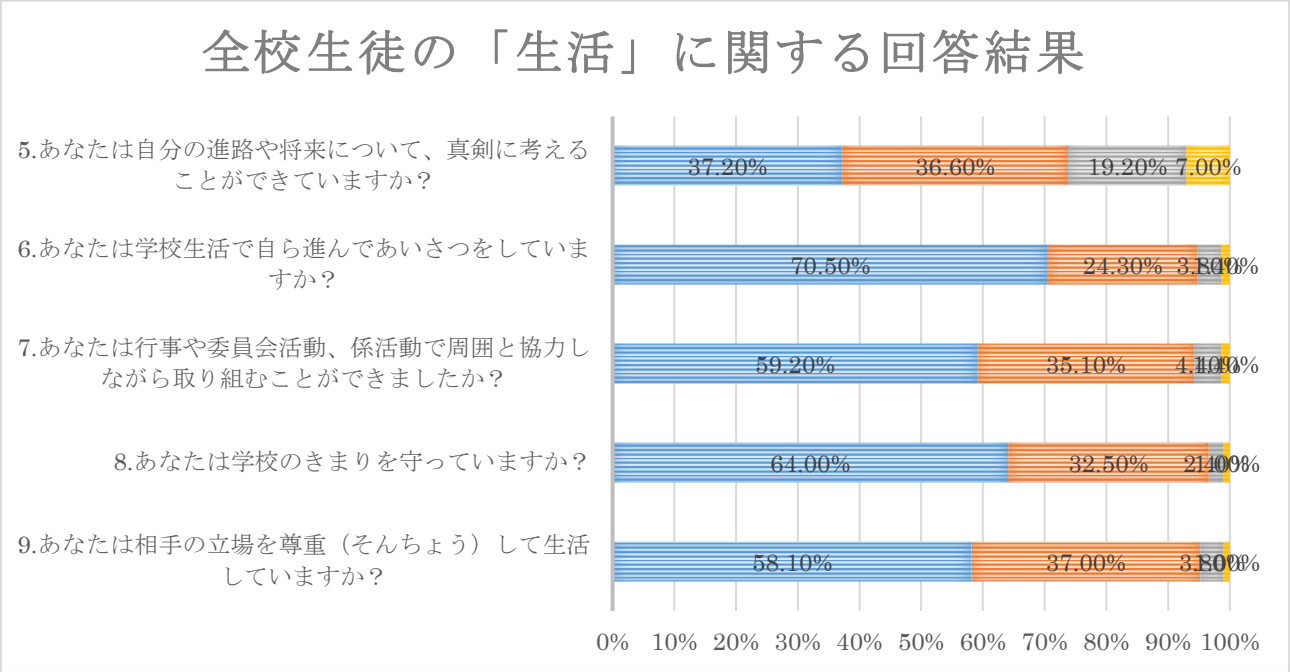


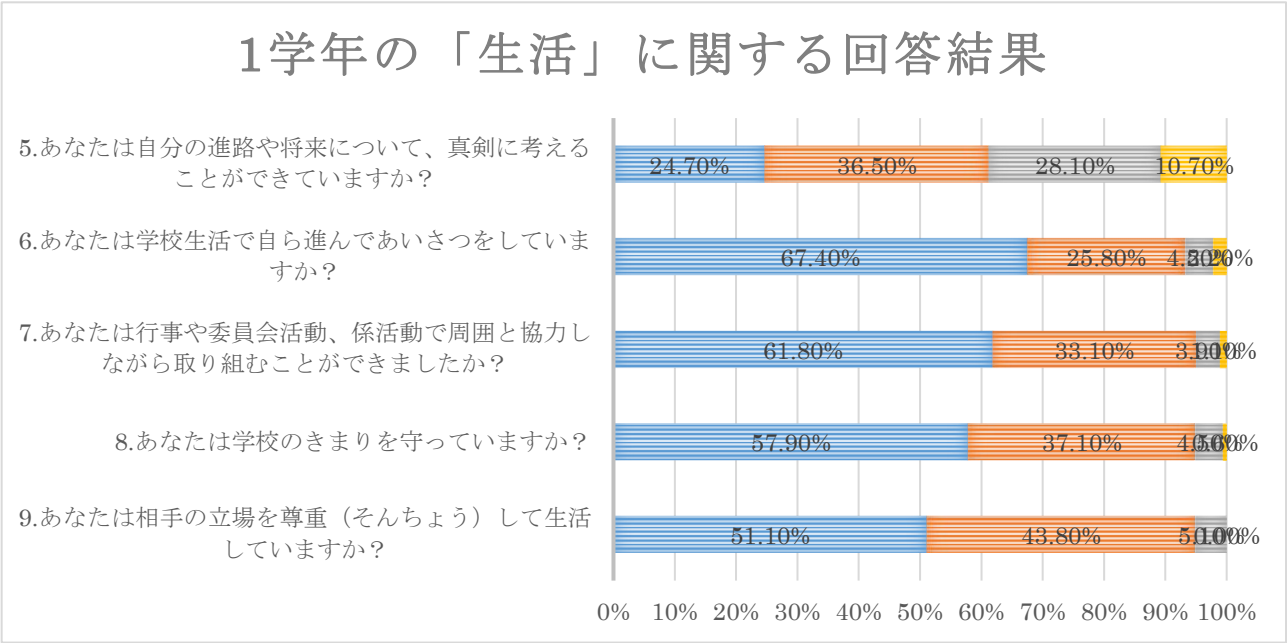


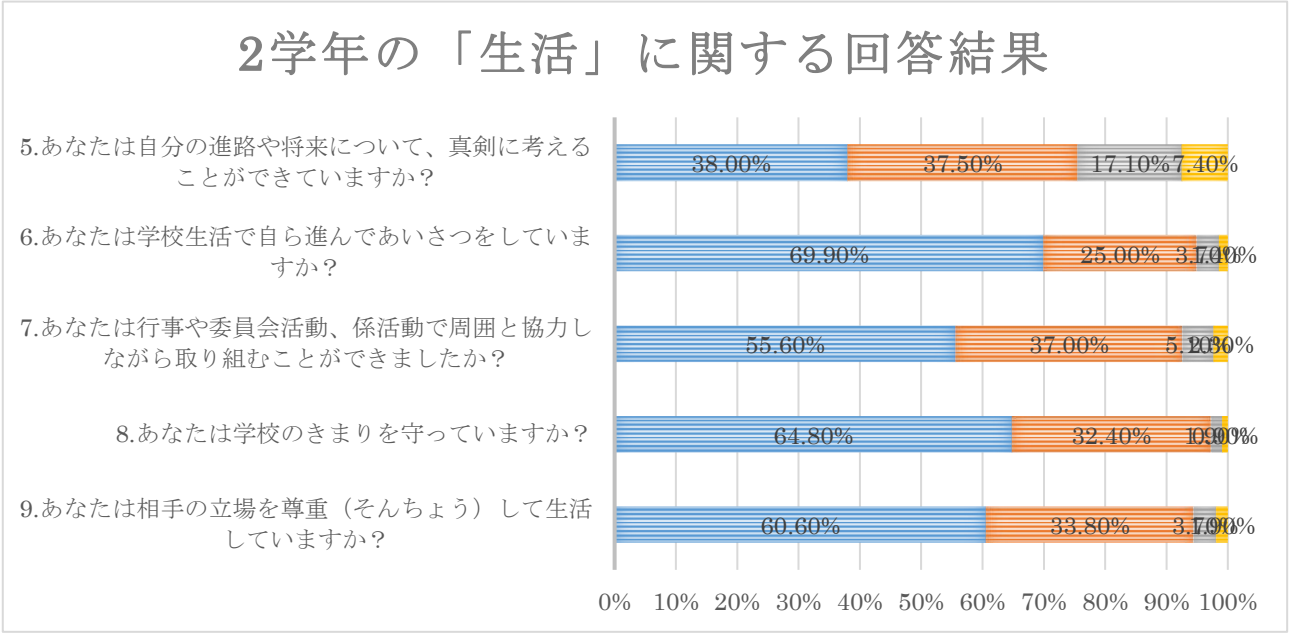
「学習」に関する項目で重点化しているのは、「わかりやすい授業の構築」と「家庭学習の習慣化」である。設問２「わかりやすい授業」に対する肯定的な回答は全体で 84.8%（昨年度 79%）となっており、生徒の主体的な学びを取り入れた授業形態や学び合い、さらに Chromebook を活用した授業方法が定着したことが、この結果に結びついている。設問３「家庭学習の習慣化」に対する肯定的な回答は 53.4%（昨年度 53%）と昨年度と大きな変化はない。学年別に見ていくと、１年 52.2%(昨年度 53%)、２年 49.1%(昨年度 48%)、３年 59.8%(昨 56%)となっており、計画的に自律的な学習を進められる生徒を育成することを次の課題としたい。

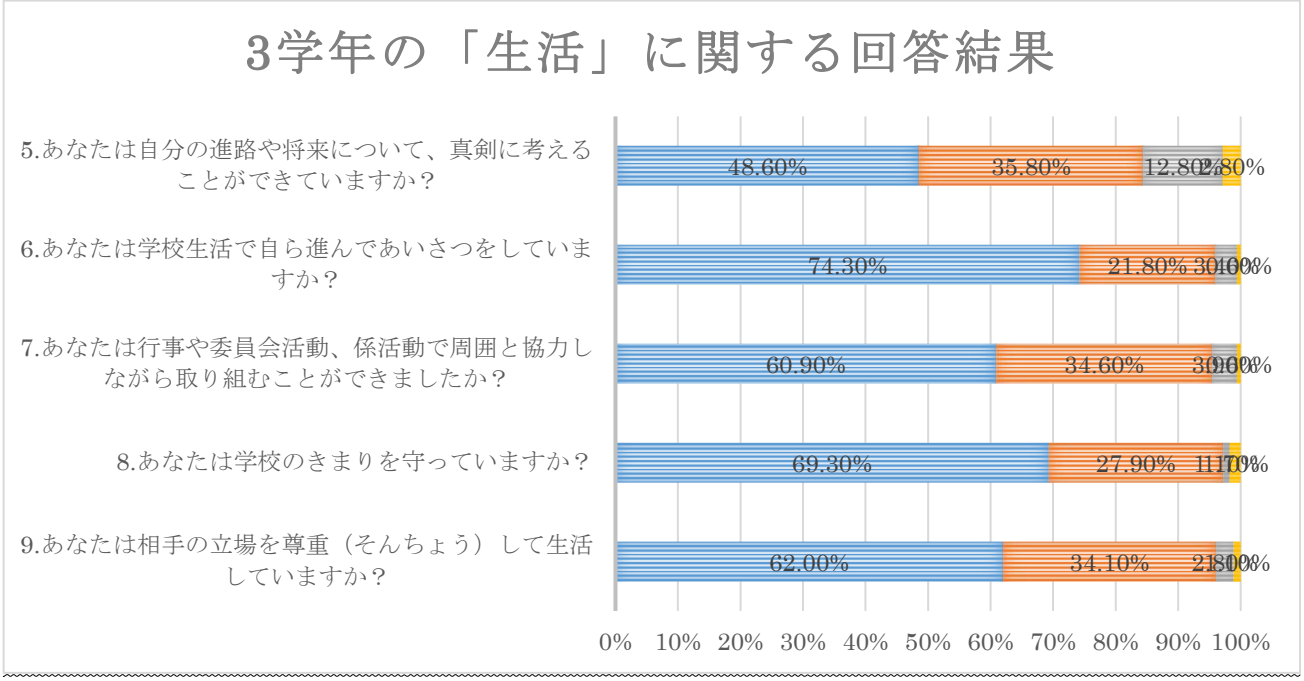
今年度より定期テストがなくなったが、主体的、計画的に自らの学びを深めていけるよう、学び方を具体的に指導するなど、自らが学びのデザインを構築し、学ぶ態度を育成していきたい。

② 「生活」に関する項目


全校生徒の「生活」に関する回答結果
5.あなたは自分の進路や将来について、真剣に考えることができていますか？
37.20%
36.60%
19.20%
7.00%
6.あなたは学校生活で自ら進んであいさつをしていますか？
70.50%
24.30%
7.あなたは行事や委員会活動、係活動で周囲と協力しながら取り組むことができましたか？
59.20%
35.10%
8.あなたは学校のきまりを守っていますか？
64.00%
32.50%
9.あなたは相手の立場を尊重（そんちょう）して生活していますか？
58.10%
37.00%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%


1学年の「生活」に関する回答結果
5.あなたは自分の進路や将来について、真剣に考えることができていますか？
24.70%
36.50%
28.10%
10.70%
6.あなたは学校生活で自ら進んであいさつをしていますか？
67.40%
25.80%
7.あなたは行事や委員会活動、係活動で周囲と協力しながら取り組むことができましたか？
61.80%
33.10%
8.あなたは学校のきまりを守っていますか？
57.90%
37.10%
9.あなたは相手の立場を尊重（そんちょう）して生活していますか？
51.10%
43.80%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

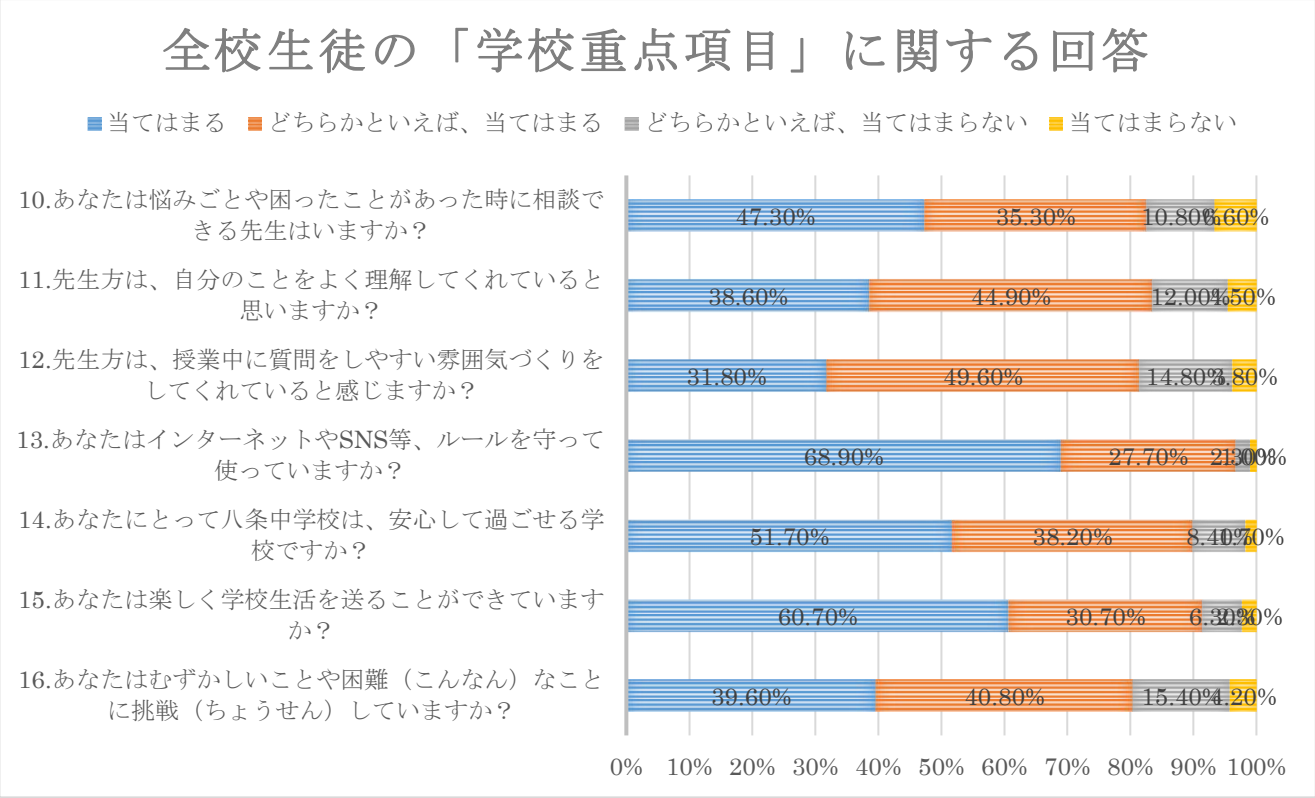

2学年の「生活」に関する回答結果
5.あなたは自分の進路や将来について、真剣に考えることができていますか？
38.00%
37.50%
17.10%
7.40%
6.あなたは学校生活で自ら進んであいさつをしていますか？
69.90%
25.00%
7.あなたは行事や委員会活動、係活動で周囲と協力しながら取り組むことができましたか？
55.60%
37.00%
8.あなたは学校のきまりを守っていますか？
64.80%
32.40%
9.あなたは相手の立場を尊重（そんちょう）して生活していますか？
60.60%
33.80%
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



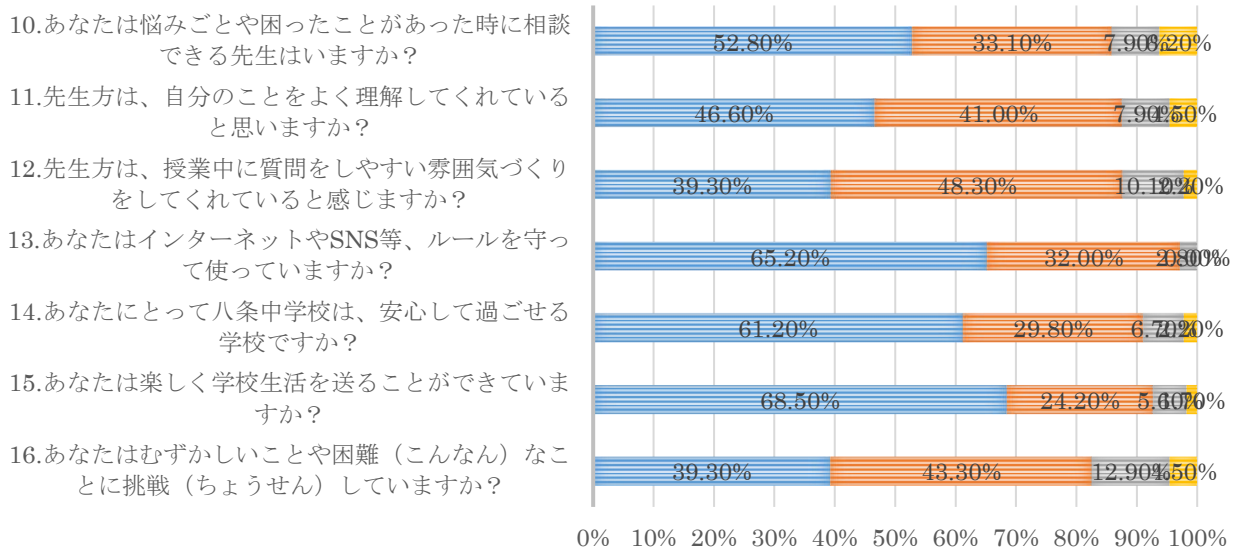
設問５については、学年間の差が大きい。（1 年 61.2%、2 年 75.5%、3 年 84.4%）進路や将来を卒業後の進路選択にのみならず、総合的な学習や道徳の授業を通して、自らの人生設計について前向きな見通しをもてる生徒を育成していきたい。

その他の項目については 90%を越えている項目が多いことから、落ち着いた学校生活を送ることができているととらえることができる。今後は、肯定的に回答ができなかった生徒も、「明日も行きたくなる学校」となるよう一人ひとりの生徒に目を向けていくよう全職員で心がけていきたい。

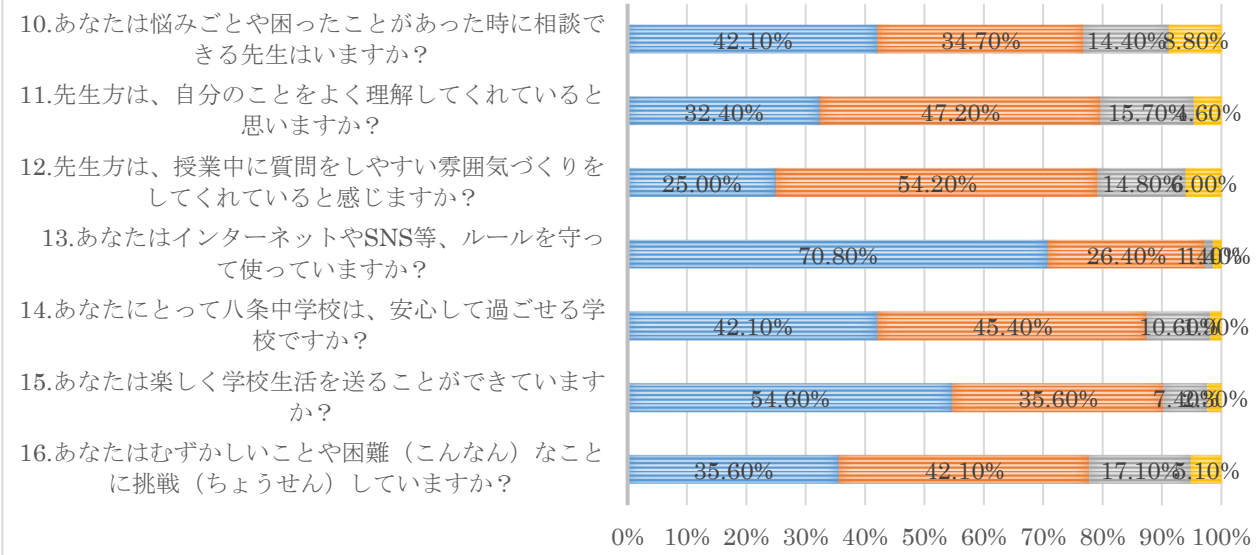
③「学校重点項目」に関する項目



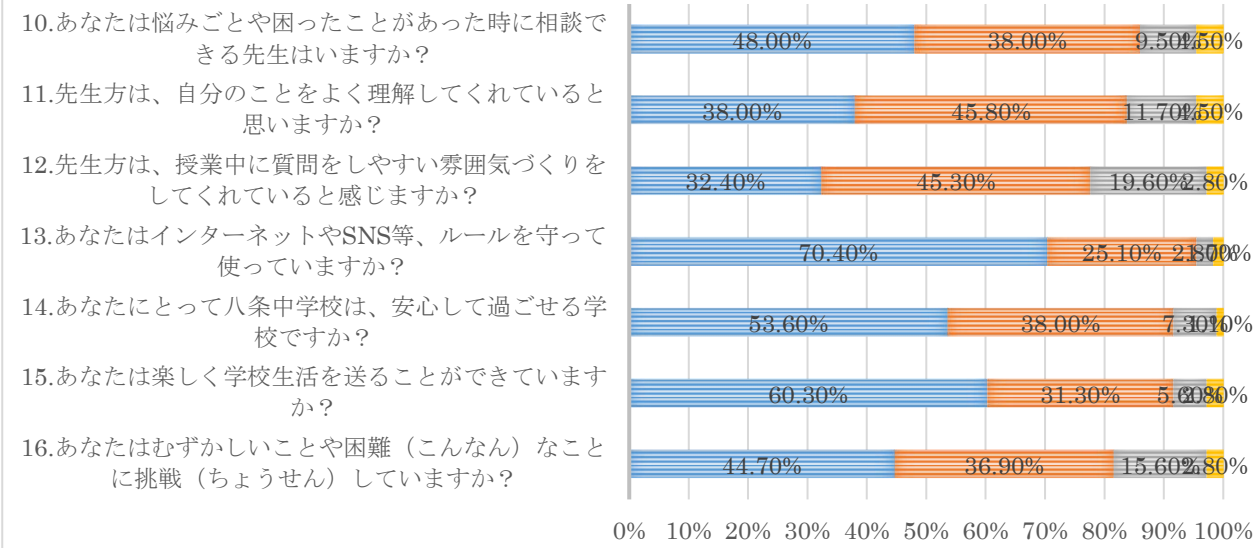
1学年の「学校重点項目」に関する回答結果



2学年の「学校重点項目」に関する回答結果



3学年の「学校重点項目」に関する回答結果



「生徒理解」に関する設問 10 の肯定的な回答は 82.5%（昨年度 71%）、設問 11 は 83.4%（昨年度 79%）と、組織的な教育相談活動や個に応じた対応の成果が表れているといえる。また、設問１２では１年生の回答が 87.6%と高く、小学校段階からスムーズに中学校の授業に移行できているといえる。

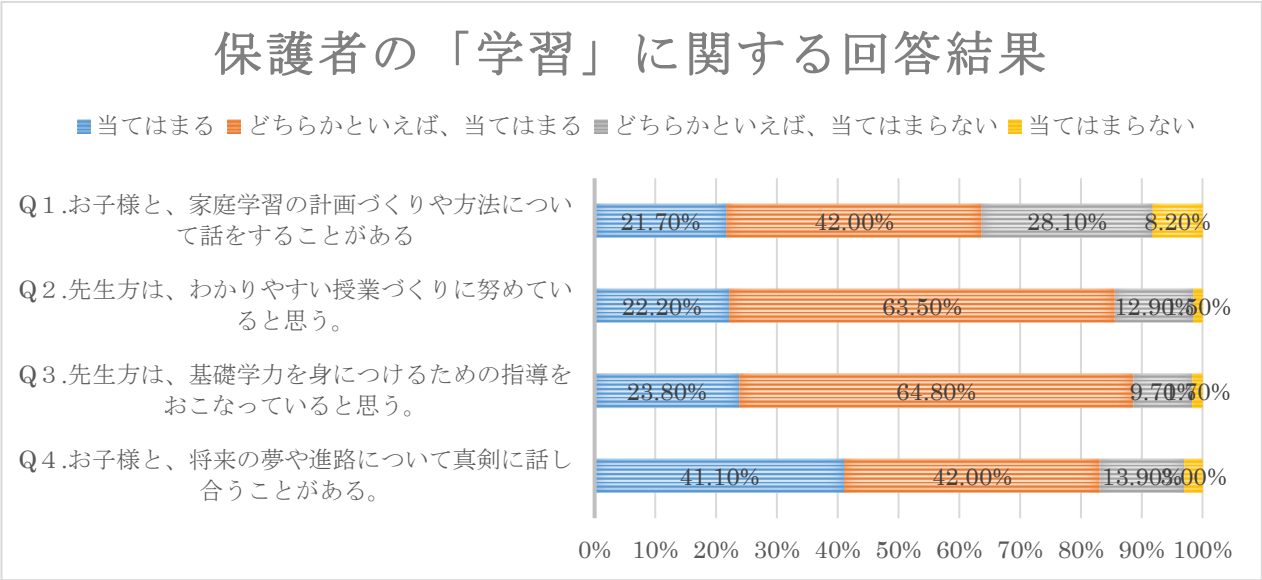
また、設問１３の「情報モラル」に対する肯定的な回答は 96.7%(昨年度９５％)となっている。しかし SNS 等や Chromebook の使用に関する問題が各学年で起きていることも事実であることから、情報モラルに関する指導を継続的に行うとともに、生徒自身が主体的にルール作りをするなど「自分ごと」として考える生徒を育成していきたい。

設問１４の「安心感」に対する肯定的な回答は 89.9%（昨年度 87%）、設問１５の「楽しい学校生活」は 91.4%（昨年度 88%）となっており、「明日も行きたくなる学校」作りにおいて最重要項目であるこの結果を、慢心することなく次年度以降も維持していきたい。

設問 16 については、肯定的な回答が 80.5%（昨年度 74%）となり、様々な困難を乗り越えて前向きに成長しようとする生徒の姿が表れた結果となった。今後も、生徒が努力する場面や達成感を感じることができる活動等を通して、粘り強い生徒を育成していきたい。

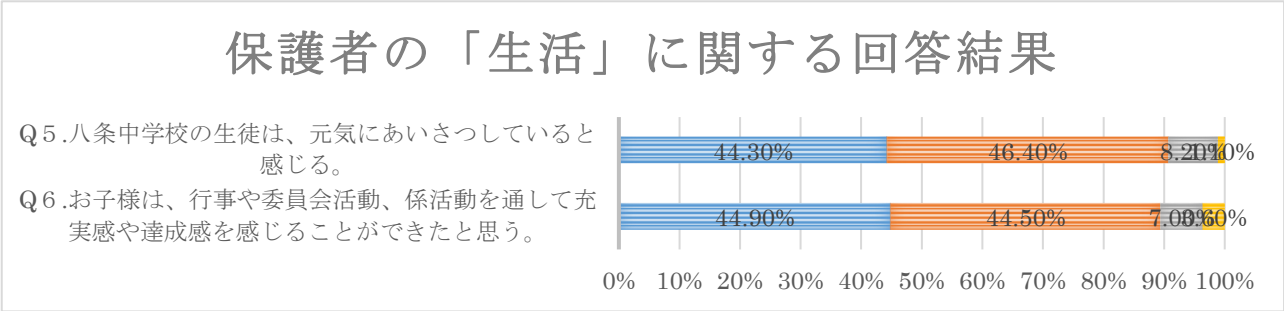
(2)保護者の学校評価に関して

①「学習」に関する項目



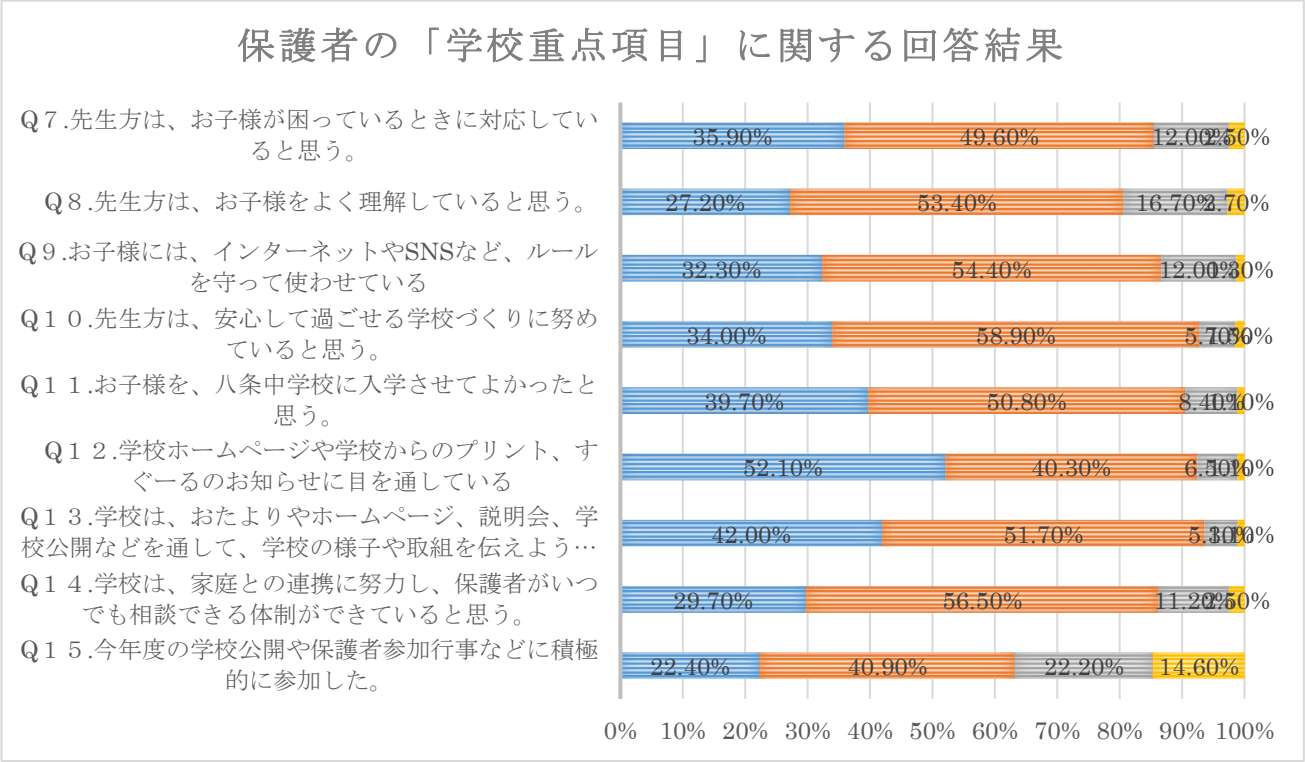
設問１「家庭学習」に対する回答は 63%となった。中学生になると家庭学習については生徒の主体的な活動になることが多いが、今後は具体的な学び方や学ぶことの意味について、家庭と協力して生徒支援を行っていくことも考えていきたい。

②「生活」に関する項目



設問５と６に関しては保護者においても肯定的な回答が多かった。

③「学校重点目標」に関する項目



どの設問も肯定的な回答が多かった。特に、今年度は「すぐーる」の導入により、学校からの発信を迅速に家庭に届けることができるようになったことから、設問 12 については、92.4%と肯定的な回答が多かった。

また、設問９の「情報モラル」に関しては肯定的な回答が 86.7%と、生徒回答の 96.6%とはやや開きがあり、SNS 等の使用に関して不安を抱いている保護者も少なくないことがうかがえる。

設問 15 については肯定的な回答が 63.3%であった。本校の教育活動について保護者に知ってもらえるよう、学校公開や PTA 等、保護者が参加する行事については情報を早めに発信し、少しでも参加者が増えるよう体制を整えていきたい。

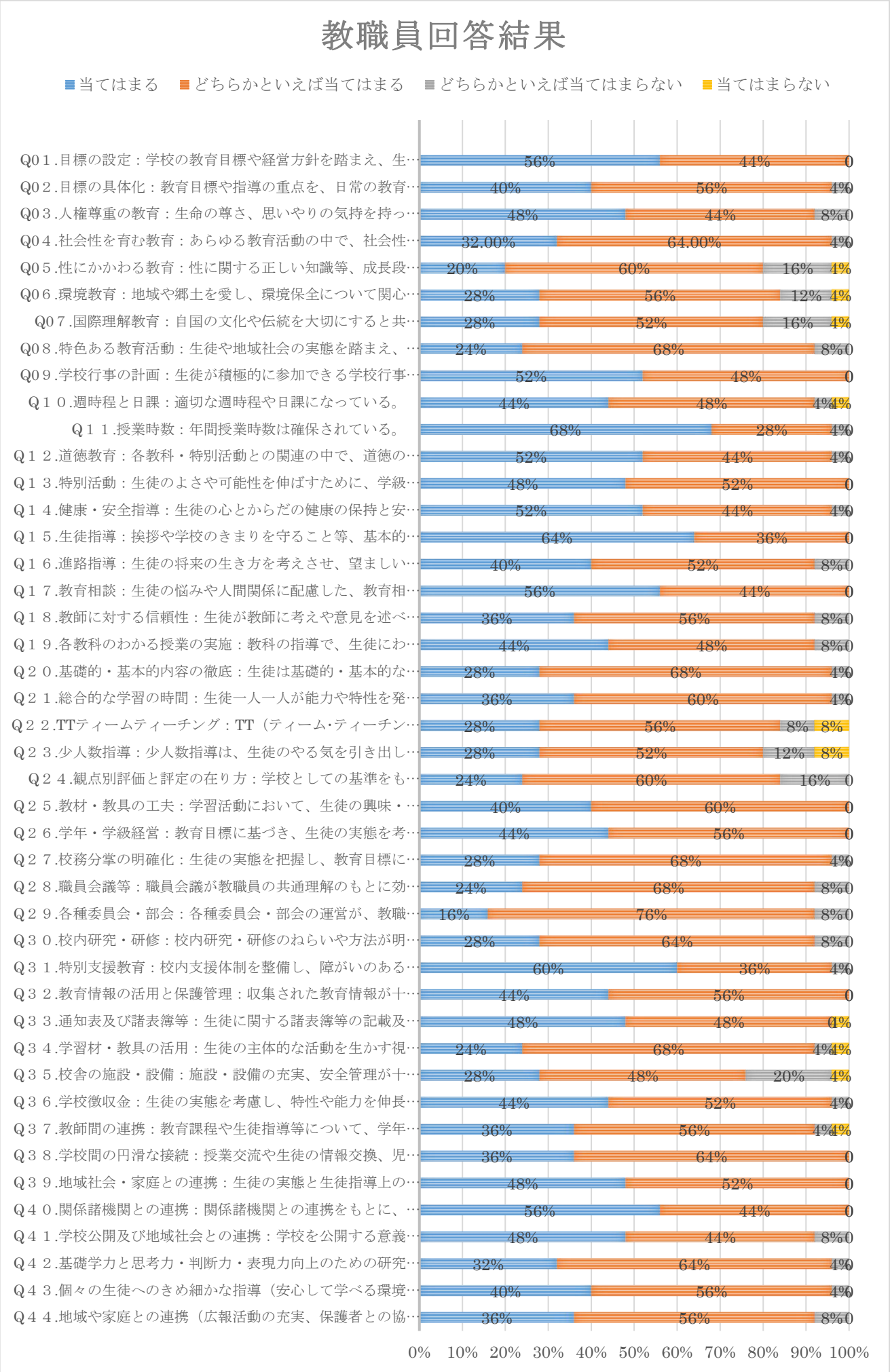
④保護者回答の記述から

今年度より定期テストをなくしたことについて不安の声があったが、各教科においては、授業構成の工夫改善とともに、単元の学習内容のシラバスを提示することで、現在求められている学びの見通しを立てる力を育成する取組や、教科の進度に応じて柔軟にテストの時期を設定し、多角的に生徒の学力を見取る取組もみられており、生徒の回答・分析からも、自ら工夫して学習に取り組む力が育まれつつある状況がうかがえる。

次年度も主体的、自律的に学ぶ生徒の育成を目指して、教育活動全体で取組を推進していることや、学習評価についての具体的な内容を、丁寧に保護者に説明すると共に、生徒一人ひとりのポートフォリオのあり方や授業方法や指導内容をより一層工夫改善することを大切にしたい。

その他の内容については、貴重なご意見として今後の学校運営に生かしていきたい。

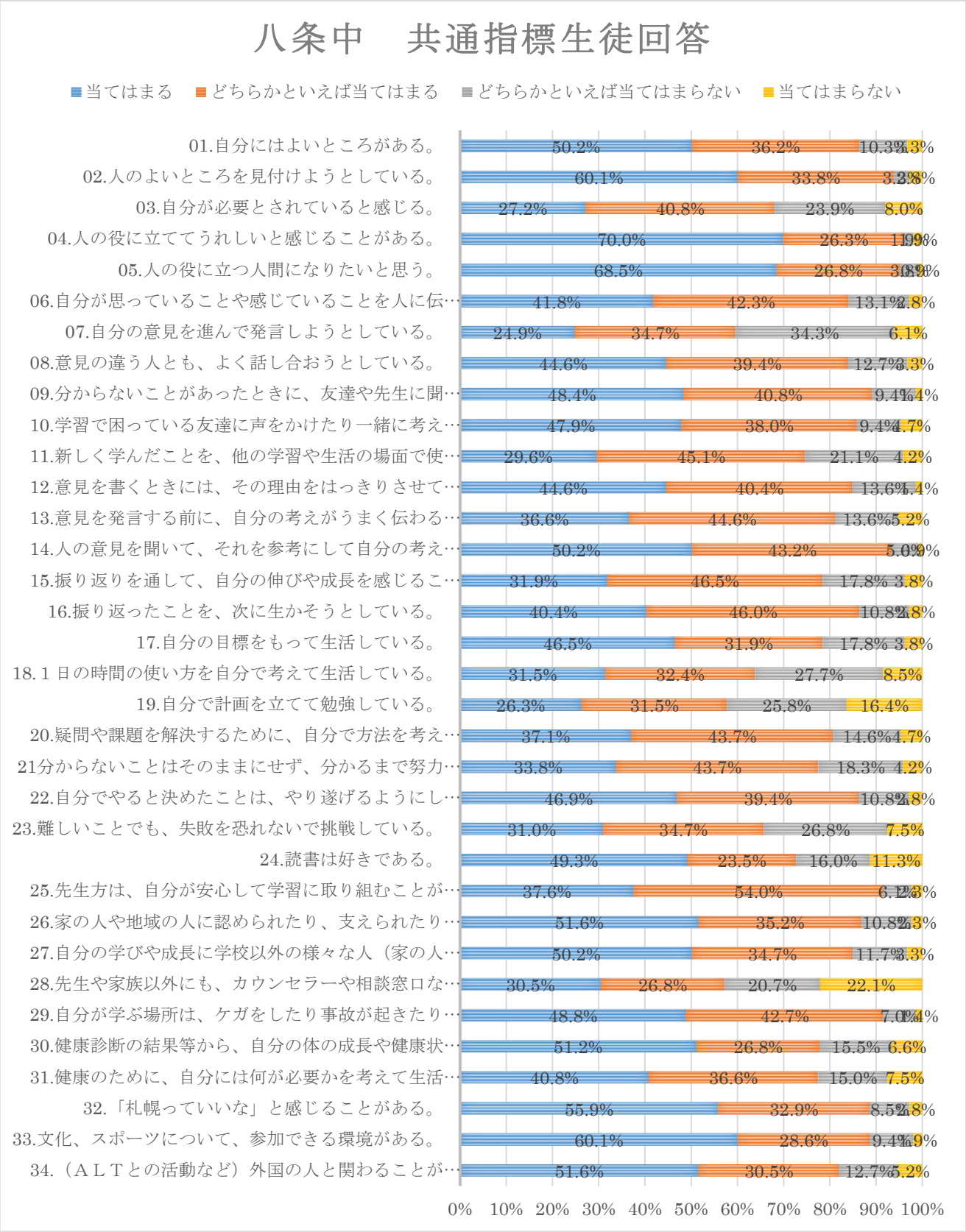
（3）教職員の自己評価に関して



どの設問に対しても肯定的な回答が８割を上回るものが多く、「明日も行きたくなる学校」づくりを目指し、全教職員が共通認識のもと教育活動を展開することができていると言える。

今後は、「多様性について」「効果的な校内研修会や職員会議のあり方」「校舎の安全管理」等についても次年度の検討事項としていきたい。

(4)市教委による生徒アンケート「共通指標」との連携



設問２「人のよいところを見つけようとしている」95.4%、設問４「人の役に立ててうれしいと感じることがある」96.3%、設問５「人の役に立つ人間になりたいと思う」95%、と肯定的な回答が非常に多く、他者を大切にする心が育まれていることが表れている。

設問８「意見の違う人ともよく話し合おうとしている」設問９「わからないことがあった時に友達や先生に聞くようにしている」90.7%、設問 10「学習で困っている友達に声をかけたり、一緒に考えたりするようにしている」86.7%では、日常の授業における学び合いの成果が表れており、生徒自らが周りの意見を聞いて自己調整を図りながら学校生活を送っていることがわかる。

設問３「自分が必要とされていると感じる（肯定的回答 70.5%：昨年度 70%）」、設問９「自分の意見を進んで発言しようとしている（肯定的回答 61.8%：昨年度 56%）からは、自己有用感や自分への自信がもてていない生徒の姿がうかがえる。一昨年度から自己有用感を育むことを学校課題として捉え、総合的な学習の時間を中心として自分の考えを発信する活動を増やすなど、生徒同士の相互理解や相互承認を深める取組の成果が少しずつ表れているといえるものの、今後も継続すべき課題の一つである。

設問 18「１日の時間の使い方を自分で考えて生活している（肯定的回答 65.5%）」と設問 19「自分で計画を立てて勉強している」（肯定的な回答が 56.8%）と、肯定的な回答が他の項目より少ない。これは学校評価と同じ結果である。

設問 28「先生や家族以外にも、カウンセラーや相談窓口など、必要なときに悩みを相談できる大人がいる」（肯定的回答 58.9%）であるが、学年が上がるにつれて肯定的な回答率が上がっているが、相談先についての適切な情報提供をするなどの啓発をしていきたい。

2. 次年度の課題への具体的な手立てに向けて

【課題１について】

本校生徒の課題である「自ら学ぶ力」を育むためには、「学習の見通し」をもち、「課題を探究」し、「振り返る」、「AAR」サイクルをどの授業でも実践することが必要である。「個別探究」と「協働探究」をバランスよく取り入れることで、相互承認の感度が高まり、自己有用感の醸成にもつながることが期待される。

さらに、学習の計画力や実践力、タイムマネジメント力を含めた自己調整力を身に付けた生徒を育成したい。

【課題２について】

「明日も通いたくなる学校」づくりの実現を目指し、また、昨年度から重点に設定した情報共有を大切にした生徒支援も引き続き重点としたい。また、生徒の自治的な活動も取り入れながら自分の考えを発信し、他者と交流する場面をもつことで、自己有用感を高めることができるような活動を、教科の授業だけでなく総合的な学習の時間や学活、学校行事を含め全校体制で横断的に行っていくことで生徒の相互承認の感度を磨いていきたい。

また、多様性を認め合い、異なる価値観を承認し合える生徒を育成するための活動を学校の教育活動全体で行っていきたい。さらに命を大切する観点から、SOS を出しやすい環境づくりや啓発活動も進めていきたい。

【課題３について】

保護者との共通理解のもと、さらに連携を深めるべく学校の様子を積極的に発信していく。また、小中一貫した教育の視点から、学習指導だけでなく生徒理解と生徒支援の連続性をもって生徒を育みたい。さらに、コミュニティ・スクールの導入に向けて、「小中一貫した教育」「自治的な活動（プラスプロジェクト等）」と、家庭や地域とのつながりを意識した活動を進める。

学校評価による令和7年度の課題への具体的な手立て

【課題1】自ら学ぶ力を高める学校づくり

<手立て>

「学び方を学ぶ」支援

① AAR サイクルを取り入れた授業へのさらなる改善

② 自身の考えや意見を発表し相互承認の感度を磨く場面の設定

（自己有用感・自己肯定感を育むための活動）

③ 自らの学びをコントロールする力を育む支援

【課題2】通うことが楽しい学校づくり

<手立て>

① 人間尊重の精神を大切にした環境づくり

（将来を見据え生徒に寄り添った支援、「他者への」「他者からの」「自己の」尊重）

② 生徒の自治的な活動の推進（支える・信じる）

③ 同僚性を高め、情報共有を強固にした生徒支援と教育相談の充実

④ 多様性を認め合い、異なる価値観を承認し合える生徒の育成

（道徳講演会・ゲストティーチャーの活用）

【課題3】地域とともにある学校づくり

<手立て>

① 「小中一貫した教育」の推進

② 生徒や保護者、地域と共に協力した体制づくり

（コミュニティ・スクール導入に向けて）